もの・クリ CHALLENGE 2006

もの・クリ CHALLENGE WG長　マテリアル工学科　安藤新二

1．緒言

学生の創造性発現のための学生コンテスト企画として，従来から「もの・クリコンテスト」が実施されてきた．これに対し，2005年度から，「ものづくり創造融合工学教育事業」の1つとして，具体的なものづくり（作品製作）に主眼をおいた「サマーチャレンジ」を企画した．その検討課題として，同じようなコンテスト企画であり，学生から両者の位置付けが判りにくいという点が挙げられた．

そこで2006年度は，FD委員会と協力し，この2つのものづくりコンテストを融合させて実施することとした．具体的には，「アイディア部門」および「製作部門」の2つの部門で作品を募集することにした．また，作品のアイディアを出しやすくするために，募集テーマを設定することとし，今回は「繋ぐ」をキーワードとした．また両部門ともに，作品製作に必要な製作費を1万円まで補助することにした．募集対象は工学部学生および工学系大学院生とした．

図1　案内ポスターと募集テーマ

2．実施概要

本年度の実施スケジュールは以下のとおりである．

7月18日　開催案内
8月2，4日　実施説明会
8月31日　参加申込締切
11月2日　16:00 作品提出
11月3日　審査会および表彰式　223教室
　10:00-12:00　1次審査
　13:00 最終審査および表彰式

開催案内は，ポスター，2号館電子掲示板および学科委員の協力により電子メールにより行った．また今回はコンテストの内容を具体的に学生に説明するため，実施説明会を行った．試験期間中であることを考慮し2回実施し，それぞれ7，8名の学生が参加した．

参加申込は，従来のホームページからの登録に加えて，電子メールおよびものクリ工房に備え付けの申込用紙からの応募もできるようにした．

最終的な参加作品は，アイディア部門24件，製作部門13件の合計39件であった．内訳は化学系5件，マテリアル系3件，機械系5件，土木系7件，建築系17件，数理情報1件であり，参加学生数は合計90名であった．

参加作品はまず「アイディア部門」については，2号館2階ロビーにポスター形式で掲示し，「製作部門」については223教室内に展示した．その後，1次審査は公開形式とし，FD委員会，ものづくり委員会および博士後期課程学生による審査委員（1名3票）および一般審査委員（学生，教職員ならびに工学部探検の来場者，1名1票）による投票を行った．審査委員22名および一般審査委員（アイディア部門193票，製作部門135票）による投票の結果，各部門で上位5作品を選出した．

上位作品については，1件約10分のプレゼンテーションおよび質疑により最終審査を行った．最終審査は，上記の審査委員に外部審査委員として園田増雄氏（熊本県工業技術センター）を加えて，「作品製作目的・着眼点」，「アイディア・独創性」，「作品の完成度・製作技術」，「作品説明の判りやすさ」を各5点満点で評価し，合計点で順位づけした．両部門を合わせて得点の最も高いものを最優秀賞，それ以外で各部門で得点の高いものを優秀賞とした．その結果，以下の作品が選出された．

・最優秀賞　製作部門　「木とつながる暮らし」
　代表　工学部環境システム工学科土木系
　　3年　中野　貴公
・優秀賞　製作部門
「Cluster Shelf（クラスター シェルフ）」
　代表　工学部環境システム工学科建築系

2年　樺島　宏子

・優秀賞　アイディア部門

「車椅子の進化形 Asiis（アシス）

～fuse into the new society～」

代表　工学部知能生産システム工学科機械系

3年　阿南　悟

入賞作作品には賞状と以下の賞品を授与した．

最優秀賞　10万円相当の品，スケッチブック大

優秀賞　　5万円相当の品　スケッチブック大

1次審査通過作品　スケッチブック中

また参加者全員にボールペンを配布した．

図2　1次審査（アイディア部門）

図3　1次審査（製作部門）

図4　最終審査会

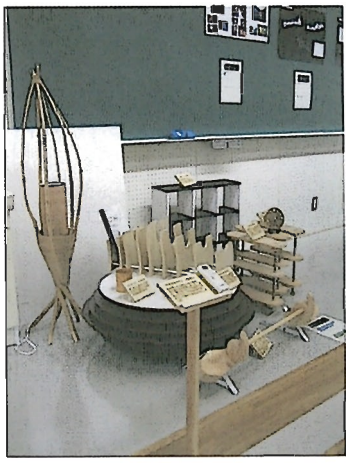

図5　最優秀賞作品「木とつながる暮らし」

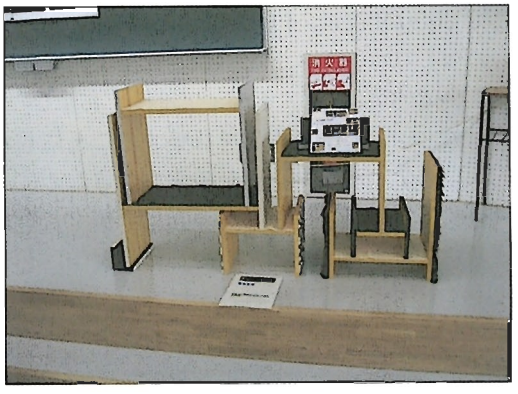

図6　優秀賞作品「クラスターシェルフ」

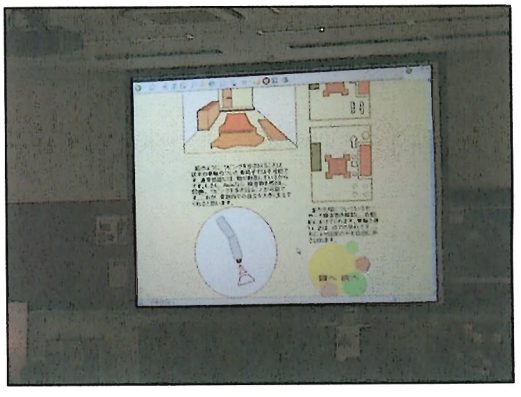

図7　優秀賞作品「車椅子の進化形 Asiis」

3．検討課題

参加件数としては，昨年のサマーチャレンジより若干減少した．これは，前回がテーマ設定を行わなかったためどのようなテーマでも参加できたためであると思われる．また今回テーマ設定を行ったが，審査会ではテーマに関する質疑が十分ではないように思われた．

しかし今回は審査を公開形式とし，工学部探検の催しとしたことで，一般参加者へこのコンテストの認識が高まったのではないかと考えられる．